

欠席委員からのご意見

平成19年11月14日

国土交通省 中国地方整備局

欠席委員からのご意見

○ 大井健次委員

- ・ アンケート回答者は、治水、利水、環境など良く勉強されている。
- ・ 治水、利水、環境等と項目分けされているが、それぞれの意見をバラバラに考えるのではなく、相互に関連し合っており一体として考える必要があるのではないか。
- ・ 太田川の景観ひとつとってみても、過去からの色々な歴史、気候、文化等、様々な特性から考えられており、整備するにしてもバランスをとって計画することが大切である。
- ・ 平和公園付近における高潮対策などは、現実として堤防を高くする事も必要である。一方、歴史的遺産や景観などに配慮することも必要となる。具体的な部分と創造的な部分が必要となり、総合的に両方を満足出来るような、新しいクリエイティブな創意工夫が必要になるのではないか。
- ・ 「太田川水系河川整備計画」や「水の都構想ひろしま」などバラバラに実施されていくのではなく、相互に反映させていくことが必要。その方法として複合的に判断できる組織を設けることも考えられる。
- ・ 太田川水系における特徴と課題については、私の想定していた意見は全て出ており、概ね理解できる。

○ 高杉千賀子委員

- ・ 安芸太田町では、太田川の水位が上がり避難したり、太田川沿いの小学校のグラウンドが浸水したり台風のたびに不安があった。治水対策の必要性を実感している。
- ・ 昔は太田川の流量が多く、材木や炭を下流の広島まで川を下って運んでいたと、お年寄りから聞いたことがある。発電利用は理解できるが、太田川の普段の流量は少なく、環境面からも問題ではないか。
- ・ 過疎化と森林の荒廃が進んでいることも、上流では大きな問題である。子供達と林業体験を通じて、山を守る大切さを学習するようにしている。
- ・ 太田川上流の川沿いで雑草の生えている場所に、不法投棄が多い。子供達とクリーン活動すると悲しい思いになる。それぞれの地域で、子供から大人までクリーン活動を実践する事が大切だと思う。
- ・ 水害の記録をしっかりと留める事が重要だと思う。災害史等で後々まで残していくことが大切ではないか。
- ・ 太田川水系における特徴と課題については、概ね了解。

○ 福田由美子委員

- ・ 情報を流すだけでは、住民は理解できない。流される情報も住民が理解できないものが多い。住民の中に河川行政を理解している、例えば「防災民生委員」のような行政と住民をつなぐ説明役が必要だと思う。自分の生活レベルで考えることができるよう、もう少し行政として努力する必要がある。
- ・ 住民の防災に対する意識が低い。防災は行政が全てやってくれると考えている人が多いように思う。地域の消防団も弱体化しており、自分達の事は自分達の方で守る「自助」「共助」も重要であり、それぞれの地域において「川の自主防災組織」の構成など積極的に行うべき。
- ・ 広域的な水利用の項目のところで、太田川の水に非常に頼っているのであれば、水源池におけるテロ対策や水質事故への対応をしっかりとやることも必要。
- ・ 川を使った雁木タクシーや遊覧船は河川利用の新たな活用をいろいろと模索し提案していると思うが、それ以外にも、今の時代で川を使って有益な産業はできないか。川はもっと利用出来るように思う。
- ・ 森林保護は重要だと思う。太田川の水の恩恵を受けている関連自治団体は、連携して森林を守る「流域ネットワーク」組織をつくって、話し合いをもつことが重要だと考える。流域全体として、森を守り育てることに向かうべき。
- ・ 太田川水系における特徴と課題については、追加する意見は特に無い。

○ 堀内日出夫委員

- ・ 太田川の高潮被害には、企業も危機感をもっている。自衛の対策をはじめている。
- ・ 河川の安全確率などは、住民には理解し難いのではないか。皆さんにわかってもらえるような広報努力が必要ではないか。
- ・ 今の集中豪雨や気候変動を、一般市民は「異常気象」だと感じ対策を望んでいる。
- ・ 太田川は大都市を流れる河川の中で、非常にきれいだと思う。
- ・ 私自身も温井ダムが完成すれば、洪水や濁水など全てが解決すると思っていた。まだまだ条件によっては、大変な危険性があることを住民の皆さんに理解してもらえないといけない。そのためにもいろいろな意見を取り入れて、情報提供を行い、危険度などをしっかり認識してもらい、最適な計画をしている行政だとの住民理解を得ることが重要ではないか。
- ・ 環境と安全は相互に相容れないところがあり、調整は大変だと思う。最後はセーフティー・ファーストでいくべきでないだろうか。
- ・ 太田川水系における特徴と課題については、追加する意見は特に無い。